

【新教養試験についてのQ&A】

Q1 なぜこのようなリニューアルをするのですか。

これまでの教養試験は、地方公共団体の職員として職務遂行に必要となる能力を検証することを目的としていましたが、これに加えて、

- ・ これからの地方自治を支える多様な人材を確保したい
- ・ 民間企業志望者も受験しやすい試験にして応募者を増やしたい
- ・ 各団体が重視する能力や様々な受験者層に合った試験を行いたい

といった、各団体のニーズに応えるために、教養試験をリニューアルすることとしました。

各地方公共団体においては、多様化する住民のニーズや複雑・高度化する行政課題に的確に対応するため、幅広い分野から多様な、能力のある人材を確保することがますます重要となっています。こうした各団体のニーズに応えるため、民間企業を志望する者も含め学歴や分野にかかわらず、多くの受験者が受験しやすくなるように出題分野構成を変更するとともに、知能重視タイプの Logical-I・II と基礎カタイプの「Light」を新設し、各団体の選択の幅を広げました。

Q2 従来は大卒程度、短大卒程度、高卒程度の3段階がありましたが、新教養試験は学歴別になっていないのですか。

従来は一つのタイプの教養試験について、主に学歴を念頭にレベルを分けていましたが、新教養試験では、学歴にかかわらず、各地方公共団体の求める人材像、重視する能力、受験者層等に応じて問題集を選択して頂けるよう、問題の種類と難度によって3タイプ5種類の問題集を用意しました。

Q3 新教養試験「Standard」はどのような試験ですか。

従来の教養試験と共通性の高い試験で、分野構成は、知識分野20題（時事、社会・人文、自然に関する一般知識を問う問題を出題）・知能分野20題（文章理解、判断・数的推理、資料解釈に関する能力を問う問題を出題）となっています。

概要は次の通りです。

- ・ これまでと比べて時事を重視し、社会的に幅広い分野の題材（ICT、環境問題、社会保障など）を出題します。なお、「古文」、「哲学・文学・芸術等」、「国語（漢字の読み、ことわざ等）」の出題はありません。
- ・ 難度はIとIIの2段階です。「Standard-I」の難度は従来の教養1と同程度です。大学で学習するような内容を含むことから、大学卒業程度以上の受験者を対象とした試験でのご利用をお勧めします。
- ・ 「Standard-II」の難度は従来の教養2・3とほぼ同程度です。高校卒業程度の受験者を対象とした試験から、大学卒業程度以上の受験者を対象とした試験まで、幅広くご利用いただけます。

Q4 新教養試験「Logical」はどのような試験ですか。

知識より論理的思考力等の知能を重視する試験で、分野構成は、知能分野 27 題（文章理解、判断・数的推理、資料解釈に関する能力を問う問題を出題）・知識分野 13 題（時事、社会・人文に関する一般知識を問う問題を出題）となっています。

概要は次の通りです。

- ・知能分野では「Standard」よりも文章理解、判断・数的推理、資料解釈の出題をそれぞれ増やす一方、知識分野では「自然に関する一般知識」の出題がありません。また、「古文」、「哲学・文学・芸術等」、「国語（漢字の読み、ことわざ等）」の出題はありません。
- ・知識分野では、これまでと比べて時事を重視し、社会的に幅広い分野の題材（ICT、環境問題、社会保障など）を出題します。
- ・難度はⅠとⅡの2段階です。「Logical－Ⅰ」の難度は従来の教養1よりもやや易くなります。大学で学習するような内容を含むことから、大学卒業程度以上の受験者を対象とした試験でのご利用をお勧めします。
- ・「Logical－Ⅱ」の難度は従来の教養2・3とほぼ同程度です。高校卒業程度の受験者を対象とした試験から、大学卒業程度の受験者を対象とした試験まで、幅広くご利用いただけます。

Q5 新教養試験の「Standard」と「Logical」の違いは何ですか。

新教養試験の「Standard」の構成は、知識分野と知能分野の出題割合が半分ずつとなっておりますが、「Logical」は知識分野と知能分野の出題割合が約1:2となっています。

新教養試験「Standard」は、時事、社会・人文、自然に関する幅広い一般知識に関する問題と、文章理解、判断・数的推理、資料解釈といった知能分野に関する問題をバランスよく出題しています。

これに対し、新教養試験「Logical」は、論理的な思考力や理解力、判断力などの知能的側面の検証をより重視するため、全40題のうち27題を知能分野の出題としております。一方、知識分野では自然分野からの出題はありません。

Q6 新教養試験「Logical」ではなぜ自然分野を出題しないのですか。

新教養試験「Logical」では、知能分野を重視することから、知識分野の問題数が少ない中で、受験者の負担を考慮し、より効率的に業務との関連が強い分野の知識を問う方が望ましいと考え、時事、社会・人文の分野からの出題とすることにしました。ただ、自然に関する身近で基本的な事柄や常識等は時事分野のテーマとして取り上げ、出題することがあります。

Q7 新教養試験「Light」はどのような試験ですか。

新教養試験「Light」は、多様な人材を確保したいという地方公共団体のニーズの高まりを受け、これらに対応できるよう開発した試験です。これまでの教養試験に比べより基礎的・常識的な問題から構成されており、民間企業を志望している受験者にも受けやすい試験となっています。

概要は次の通りです。

- ・ 出題数は全 60 題で、「社会への関心と理解」(24 題)「言語的な能力」(18 題)「論理的な思考力」(18 題)という、大きく分けて三つの分野について、考える力や幅広い関心を問う問題を出題します。
- ・ 地方公務員の採用試験であることを踏まえ、「社会への関心と理解」の分野では、地方自治に関する基礎的な知識を問う問題も出題します。
- ・ 全ての問題が四つの選択肢から一つ正解を選ぶ四肢択一式のマークシート式試験です。各問題は、「Standard」と「Logical」よりもコンパクトで、易しくなっております。
- ・ 解答時間は 75 分を予定していますので、「Standard」と「Logical」よりも短い時間での実施が可能となります。

Q8 新教養試験「Light」はどのような場合に使用すればよいですか？

新教養試験「Light」は主に新規学卒者を対象として、社会への関心や基礎的・常識的な知識、職務遂行に必要な基本的な言語的能力、論理的思考力を問う試験です。公務員試験に向けた準備を必要とするものではないので、次のような場合のご利用に適しています。

- ・ 民間企業を志望している受験者にも受験してほしい場合
- ・ 人物面を重視するに当たり、基礎的な知的能力を確認しておきたい場合
- ・ 学歴を問わず幅広い層の受験者を対象とする場合
- ・ 職種にかかわらず、基礎的な知的能力を確認したい場合

新教養試験「Light」は基礎的な知的能力を検証するための試験ですので、専門試験や検査、面接試験等、他の試験と組み合わせてのご利用をお勧めします。

Q9 新教養試験「Light」と「職務基礎力試験（EA）」との違いは何ですか。

新教養試験「Light」が主に新規学卒者を対象として、社会への関心や、高校、大学で学んだ基礎的・常識的な知識、職務遂行に必要な基礎的な言語的能力、論理的思考力を問う試験であるのに対して、「職務基礎力試験（EA）」は、職務経験者（社会人）を対象とする試験で、一般社会で身に付けていく知識や能力を問う問題も出題されますので、対象に応じて使い分けてのご利用をお勧めしております。

なお、分野や四肢択一形式は同様ですが、題数、解答時間は異なります。分野の構成割合は、「職務基礎力試験（EA）」は3分野均等ですが、新教養試験「Light」は「社会への関心と理解」の分野が多めになっています。

Q10 教養試験、新教養試験とSPI、SCOAとはどのような違いがありますか。

SPI、SCOAにも知的側面を見る部分があり、それぞれ特徴がありますが、SPIでは主として受験者の思考・判断力などの基礎能力を見ており、SCOAでは受験者の基本的な知的能力と学校で学ぶ知識や常識などを見ていると言われています。

これに対し、当試験センターの試験は、地方公務員の採用試験として開発されたものであり、地方公務員として必要とされる能力、すなわち職務遂行上求められる能力を測定できるよう設計されたテストとなっています。当試験センターの試験は、時事的事項の理解を問う問題や、地方に関する基礎的な知識を問う問題、あるいは文章や英語を理解する能力を問う問題、論理的な思考力を問う問題などを通じて、「採用試験は、（略）標準職務遂行の能力（略）を有するかどうかを正確に判定することをもってその目的とする。」という地方公務員法第20条の趣旨を体現しようとするものです。